

全国月間火山概況（平成 23 年 12 月）

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給は続いており、マグマだまりから新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば、噴火活動が再び活発化する可能性があります。新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

口永良部島では、11 月 30 日頃から火山性地震のやや多い状態が続き、12 月 11 日以降はさらに増加したことから、火山活動が高まっていると判断し、15 日 15 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生と予想されますので、新岳火口から概ね 1 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島では、今期間噴火は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返しています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

1 月 9 日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 1 月 9 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌブリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孺婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田崩山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



図1 噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

秋田駒ヶ岳 【噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)】

仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）では、14日に一時的に女岳から高さ50mの噴気を観測しました。

13日に、陸上自衛隊東北方面総監部の協力により実施した上空からの観測では、2011年10月までに確認されている女岳の山頂北部、北東斜面、北斜面、南東火口、北西斜面及び山頂付近の地熱域に対応する融雪域が確認されました。融雪域や地表面温度分布から、新たな地熱域は認められませんでした。

27日12時34分に女岳の西側2km付近を震源とするマグニチュード2.6の地震が発生し、仙北市田沢湖生保内上清水で震度1を観測しました。この地震の発生後、一時的に地震回数が増加しましたが、その後は収まっています。この地震による火山活動の高まりを示す現象は観測されていません。

火山性微動は観測されませんでした。

ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

日光白根山 【噴火予報(平常)】

2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、日光白根山の西側及び北西側へ約5km付近、東側から南東側へ約5～10km付近での地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。今期間、震度1以上を観測する地震は発生しませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

焼岳 【噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)】

2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活

動が活発化しましたが、その後、地震活動は低下してきています。火山性微動や低周波地震は観測されませんでした。

直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

富士山 【噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)】

2011 年 3 月 15 日 22 時 31 分に発生した静岡県東部（富士山の南部付近）の地震（マグニチュード 6.4）以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。2 日 10 時 29 分に静岡県東部（富士山の南部付近）を震源とするマグニチュード 1.7 の地震が発生し、静岡県富士市で震度 1 を観測しました。深さ 15km 付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況でした。火山性微動や浅部の低周波地震は観測されませんでした。

その他の観測データでも浅部の異常を示すものではありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

伊豆大島 【噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)】

GPS 及び体積ひずみ計による観測では、2011 年 1 月頃より縮みの傾向が認められましたが、GPS では、10 月以降伸びの傾向が認められます。また、長期的には、GPS 連続観測で、地下深部へのマグマ注入によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。

北西外輪に設置してある遠望カメラでは、剣ガ峰付近や三原山山頂火口、三原新山北側などでごく弱い噴気が時々観測されました。20 日に実施した現地調査では、三原山山頂火口内及びその周辺でごく弱い噴気が引き続き確認されましたが、三原山山頂火口内にある中央火孔の最高温度、中央火孔内の地表温度分布、その他、三原山山頂周辺の噴気温度に特段の変化は認められませんでした。

火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。

三原山の噴気の状態及び熱活動には特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)】

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100～300m で経過しました。

5 日及び 19 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたりいずれも 1,100 トン（前月 11 月 1 日及び 24 日、それぞれ 500 トン及び 800 トン）で、多量の火山ガス放出が続いています。三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

火山性地震は少ない状態が続いています。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

GPS 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続しています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険)】

地震活動は 2011 年 2 月末頃から比較的活発な状態が続いています。

国土地理院の観測によると、2006 年 8 月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011 年 1 月末頃から隆起速度が増加していましたが、同年 12 月下旬頃から隆起傾向はやや鈍化しています。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

福岡ノ場 【噴火警報(周辺海域警戒) 及び火山現象に関する海上警報】

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした。白色の噴煙が火口縁上概ね100m（最高高度は500m）の高さで経過しました。

9日、13日に航空自衛隊航空救難団芦屋救難隊、21日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩の大きさ（直径約600m）や形状及び周辺の噴気の状況に特段の変化はなく、主に溶岩の北側及び東側から、白色の噴煙が上がっているのを確認しました。9日の調査では、2008年8月の噴火時に形成された西側斜面の割れ目から白色の噴気が数m上がっていましたが、13日及び21日の調査では確認されませんでした。赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺が比較的高温な状態でした。また、西側斜面の割れ目の一部にやや温度の高い部分が認められました。

火山性地震の月回数は966回（11月：800回）と、やや多い状態で経過しました。震源が決まった地震はこれまでと同様に、新燃岳付近の海拔下0～2kmに分布しました。

振幅のごく小さな火山性微動が発生し、継続時間は1分（11月：1分）でした。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへのマグマの供給を示す変化が続いています。なお、GPSの一部の基線ではこれまで見られていた伸びの傾向がやや鈍化しています。傾斜計では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

20日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり200トン（11月21日：300トン）と少ない状態でした。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から10kmを超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

桜島【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は145回（11月：78回）でそのうち爆発的噴火の回数は125回（11月：57回）でした。また、大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300m～1,800m）まで達した爆発的噴火は、7回発生しました。噴煙の最高高度は、火口縁上2,200mでした。火砕流は、確認されませんでした。

同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測しました。

南岳山頂火口では、11～13日にごく小規模な噴火が発生しました。ごく小規模な噴火の発生は、2011年2月13日以来です。

火山性地震は、一時的な増加（9日：55回、14日：66回、18日50回）がありましたが、概ね少ない状態で経過しました。月回数は856回（11月：471回）でした。震源が決まった地震は、南岳直下の海拔下約3kmでした。

噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は692回（11月：328回）で、継続時間の月合計は57時間47分（11月：36時間21分）と前月と比べてやや増加しました。

14、26日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり1,800～2,900トン（11月：1,200～3,200トン）と多い状態でした。

有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、11月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いています。これは桜島直下へのマグマの供給量の増加によるものと考えられます。

GPSによる地殻変動観測では、2011年初め頃から島内の基線長がわずかに縮む傾向がみられましたが、9月頃から伸びの傾向に転じています。また、国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

鹿児島地方気象台での観測では、月合計38g/m²（降灰日数5日）の降灰を観測しました。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した11月の降灰量は36万トンで、10月（50万トン）と比べやや減少しました。2011年の降灰量は11月までで402万トン（2010年同期間：512万トン）で、南岳山頂火口の噴火活動が活発であった1980～1990年代と比べると半分程度の量です。

21日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊及び27日に大隅河川国道事務所の協力を得て行った上空からの調査では、昭和火口の火口内は、高温の噴煙が認められましたが、噴煙のため火口底の状況は不明でした。火口の形状に特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布に特段の変化は無く、以前より観測されていた火口周辺部分の高温の領域が認められました。

南岳山頂火口の火口底の状況は、噴煙のため不明でしたが、火口内壁及び火口周辺では、形状や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布にも特段の変化は無く、以前より観測されていた山頂火口内のB火口付近の高温の領域が認められました。またその他火口内壁の噴気孔部分は高温な領域となっていました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上 300mまで上がりました。

19日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、前回(2010年12月)と比べて、噴煙活動の状況に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。また、周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認されました。

火山性地震の発生回数は、月回数は167回(11月:159回)と少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした(11月:なし)。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1 kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

口永良部島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】 ←15日に噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げ

火山性地震は、11月30日頃からやや多い状態が続き、12月11日以降はさらに増加しました。26日以降、減少しましたが、引き続きやや多い状態です。火山性地震の月回数は480回(11月:44回)でした。震源が決まった地震は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動は9日までは時々発生していましたが、その後は観測されていません。継続時間の月合計は26分(11月:1時間4分)でした。

遠望観測では、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 300m以下の高さで経過しました。

4日から7日にかけて現地調査を実施しました。赤外熱映像装置による観測では、前回(2011年5月)と比較して新岳火口内、古岳火口内及びその周辺の地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

19日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施しました。新岳火口では、主に南側火口内壁から白色の噴煙が火口縁上 100m程度上昇し、南東へ流れていました。南側火口内壁の噴気孔付近には硫黄の昇華物が付着していました。新岳火口の噴煙活動は、前回(2010年12月14日)と比べ特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、前回(2010年12月14日)と比較して地表面温度分布に特段の変化は認められず、火口内の噴気孔に対応して熱異常域が認められました。また、火口縁の南側にも熱異常域が認められました。古岳火口内では、火口底から白色の噴気が高さ20m程度上昇していました。火口内の状況は、前回(2010年12月14日)と比べて特段の変化は認められませんでした。

9日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり200トンと、火山活動が活発であった2008年12月頃と同程度でやや多い状態でした。

GPS連続観測では、新岳を挟む七釜-SDW(産業技術総合研究所)の基線で2010年9月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011年9月頃から鈍化しています。

4日から8日にかけて実施したGPS繰り返し観測では、2010年9月の観測と比較して、新岳火口直下ごく浅部の膨張を示す変動が認められました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、新岳火口から概ね1 kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

諏訪之瀬島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返しています。噴煙の最高高度は火口縁上400m(11月:600m)でした。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

19日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、御岳火口底の中央部で高温域が認められました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした（11月の微動継続時間の合計：28時間30分）。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

（火山の順は活火山総覧（第3版）による）

資料１ 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成 24 年 1 月 9 日現在）

（１）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 9 月29 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17 日 噴火予報（平常） 2008年11月17 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年12月16 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 6 月 9 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年10月27 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
関東・中部地方	磐梯山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	那須岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008年 8 月 8 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 2 月 1 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009年 2 月 3 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2009年 4 月 7 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010年 4 月15 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報 （レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山 （新燃岳）	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月16日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年５月６日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年１月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年１月31日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年２月１日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年３月22日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年２月３日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年２月20日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年４月８日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年７月14日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年７月28日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年８月28日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月19日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年３月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月10日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月24日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年７月19日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年９月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年１月25日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年９月４日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月18日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年８月４日 噴火予報（レベル１、平常） 2009年９月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。
この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年(2007 年)12 月 1 日に噴火予報(平常)を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカシダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

* 天頂山と雄阿寒岳は、平成 23 年 6 月 7 日に活火山として選定され、噴火予報(平常)を発表した。